



**赤ちゃんは、お母さんのおなかの中で息をしているの**

**必要な酸素はお母さんからもらっている**

息というのは、空気中の酸素を、体の中に取りこむことです。

わたしたちの体は、小さな小さな細胞というものが、60兆も集まってできていますが、酸素がなければ、全身の細胞は活動することができず、次々と死んでいくこととなります。

もちろん、赤ちゃんも生きていますから、酸素は必要です。しかし、赤ちゃんはお母さんのおなかの中で、息をしているわけではありません。赤ちゃんは、自分の体を使わず、すべてお母さんからもらっているのです。

**赤ちゃんの体は、「へそのお」でお母さんにつながっている**

赤ちゃんは、自分の体に必要な酸素や栄養など、すべてのものをおなかの「へそのお」で、お母さんからもらっていました。その「へそのお」のとれたあとがへそです。

「へそのお」は、赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいたときには、お母さんのおなかの中にある、たいばんにつながっていました。「へそのお」の中には、動脈と静脈があり、静脈を通して、赤ちゃんの必要な栄養や酸素はお母さんから送られ、赤ちゃんのいらなくなったものは、動脈を通してお母さんに送られ、捨てられていたのです。（監修・保志 宏）

